



事務所 伊那市西町5016-2 TEL(72)0077 例会日 毎週木曜日 会場くぬぎの杜 TEL(78)1121  
 会長 山田 益 幹事 唐澤幸利 会報委員長本田敏和 第2998回 例会2023.8.3 No.1658



世界に希望を生み出そう

2023-24 年度 RI テーマ

CREATE HOPE  
In the WORLD

**ソング** 君が代・奉仕の理想**四つのテスト** 職業社会奉仕委員長**会長談話** 山田 益会長

「知の巨人」(伝説のジャーナリスト)「見えた 何が 永遠が」立花最後の旅 (NHKTV—BS 2023/7/16) が放映されました。NHK 岡田ディレクターは立花さんを 17 年間取材してきた。2007/12 月立花さんにかんがみつかかり呼び出されてから亡くなる 2021/4 まで続いていた。岡田 D 曰く、「立花さんは宇宙、科学、芸術、歴史、政治あらゆるものに興味を持った人」「膨大な量 (5 万冊) の本、資料をもって事実を突き止める人」と言いました。立花さんの言葉「生きることは面白い、分からないから面白い、人間と言う存在はもっと豊かでそう簡単にこうだと言えないからそこに面白さが有る」そして「見えた 何が 永遠が」立花隆 最後に旅 完全版となりました。そして言い残した言葉は、「墓も戒名もいらない、遺体はゴミとして捨ててほしい」「集めた膨大な量の書籍を一冊残らず古本屋で売り払ってほしい」と。事実立花さんが亡くなって半年後に遺族が全てを古本屋に売ってしまいました。また未整理の資料段ボール 100 箱の中から立花さんメモ「人間はどこから来て、どこへ行こうとしているのか、このところをいろんな角度から光を当てて考えるという事を続けてきたわけです」と。

東大での講義の中で岡田 D 宛ての本で「人間の現在 第二巻」が有り「全てを進化の相の下に見よ」とあり、資料の中で最も古いものの中に「田中角栄」の金権政治をあばき「田中角栄研究—その金脈と人脈」(1974 年文芸春秋) 評論家 (会社は 2 年で辞めている) : 立花隆で出版しようとしたが会社からは許可は出なかった。しかし社内は

大騒ぎとなっていた。この研究は戦後のジャーナリズムの金字塔と言われている。当時は全国で新幹線工事などで建設ブーム。しかし立花さんの資料のスタートは、驚くほど素朴な事からのスタートでした。

組織の構成、カネの集め方、カネのまき方などで、カネ=当選と言うサイクル。ウラのマシーンが有るに違いないとみた。「角栄の金の使い方、金の作り方がおかしいに違いないからそこを調べたらどうですか、それが提案です」と取材班に話したら、「そんな事出来ないよね」と一蹴された。しかし取材班の一人小林俊一さん (40 年の付き合いの人) は、「立花さんのやり方は全然違う。全国の土地の登記簿を調べて内容を見るやり方、これは「オープン・ソース・ジャーナリズム」の先駆けだった立花さんだった」また他の人は「立花さんの資料読むスピードは驚くほど早くて「室町産業」など実体のない会社との投資、有価証券リストを作った」などです。

立花さん曰く「お金に頭が上がらない、長いものには巻かれる」この信条が日本中の全ての人に染みついているんですね。だけどこんな事は馬鹿げています。弓を引いたって怖いものは何も怖くないんです。でもその後立花さんはこの取材から手を引いていきました。「あのために俺、どれだけ人生損したと思う？」本当に腹が立つ。めちゃめちゃ時間使わされたから、角栄にね。もう本当にやめてほしい。こっちはこっちでやりたい事、別の方向に沢山あるわけ」と話しました。「人間はやりたいことをやるべき。僕自身はいったい何者であるのか、そこを知りたいので本を読み続けているのです。40 代で新たな人生を歩みだし、アマゾンに取材に行った。自然の中でこう綴って

います。「真の人間性は自然状態にある自然人においてこそ花開いている。」そのように高い文化をジャングルの中に住んでいた未開のインディオたちが作り上げたという事は確かに歴史における驚異なのである。

### 誕生祝

小坂樫男・熊谷勝昌  
藤澤洋二・吉澤祥文  
大石ひとみ・唐澤幸利  
本田敏和・唐木 拓



### 結婚記念日祝

大石ひとみ・唐木 拓



### 在籍祝

唐澤幸利(7)・三澤 聡(3)



**出席報告** 会員数 57名 内出席免除者 20名  
出席者 29名 事前メーキャップ0名 出席率70.73%

### ニコニコボックス

- ・赤羽弘之 「ロータリーの友」を紹介させていただきます。
- ・唐木 拓 娘が所属しているソフトボールチーム「アルプスイーなちゃん」が優勝しました。2028年には伊那市で国体のソフトボールが実施される予定ですが、今後ソフトボールが盛り上がりげばと思います。

### 在籍祝

#### ラッキー賞

- ・小河節郎・赤羽弘之
- ・菅 靖世・中山一郎
- ・平出吉範・神山公秀
- ・藤澤洋二



### 幹事報告

別紙をご覧ください

**理事会報告** 1. 8月のプログラム 2. 入会希望者  
3. RLI 参加者 4. 納涼例会計画・予算について  
これらすべて承認された。

### 委員会報告

雑誌紹介

○8月号「ロータリーの友」赤羽弘之副会長

横組み P4～国際ロータリー会長のゴードン R. マッキナリー氏の「思いやりの心で行動しよう」とメッセージが掲載されております。P7～「生涯の友が見つかる場所へ」という特集記事。最初に川



越 RC の小城直樹さんと山田禎久さんが出会って、「川越若手社会人会議」を立ち上げた記事を掲載。転勤族と地元密着の方がロータリーで出会い、意気投合し、そして地元で若手経営者の会をどのように企画して立ち上げたのか、という事が書いてあります。P10～川越 RC 発「川越若手社会人会議」の開催の様子を紹介。P12～「子年生まれの二人」という記事で一回り違う年齢でも RC を通じて親友と呼べる関係になった記事。P14～女性ロータリアンで会長経験者の会の様子、姉妹クラブの尾張旭 RC の女性らを紹介。P16～メルボルン国際大会のレポート。P22～23 米山奨学事業の基礎知識を掲載。P31～「ROTARY AT WORK」として各地の RC の活動状況を掲載。**縦組み** P4～東日本大震災にあいながらも、旅館再生に取り組んだ深田智之氏の講演原稿。P9～「専業主婦から5代目社長に」という岡山西 RC の藤原恵子氏のお話。P23～「日台ロータリー会議」の登録をご案内する記事。

### ○納涼例会について

8月19日(土)に開催予定の納涼例会「3,000回記念例会」について、菅 靖世親睦活動副委員長より、計画・予算等について説明された。



### クラブフォーラム

会員増強・新クラブ結成推進月間  
唐木 拓 会員増強副委員長より、今年度の委員長の方針が読み上げられ、各テーブルごとに候補者リストを参考に、話し合いが行われた。

